

2学期の具体的改善プラン

平成23年度 白根百田小学校

1 基礎学力（生きる力、人間力）の向上のために

(1) システムの面から

①授業時数の確保・・・計画の工夫、行事の見直し

②放課後等の補習授業時間の確保と充実

→①②についてはすでに行われてきているが、現実的には、

- ・物理的に持っている時間に限りがあること
- ・新教育課程により学習する内容が増えたこと
- ・不審者対応のための一斉下校や複数下校、行事に関わる準備、教職員の出張等で放課後の時間が取りにくいこと

などの理由から限界に達してきている。

③「朝学習」の時間（8：25～40）を、網羅的な活動から集中的な活動へ変更（徹底）

従来・・・月 音読 火 読書 水 読書 木 漢字 金 計算

2学期より・・・月～金まですべて「朝の読書」を基本とする

（開始・終了時間の徹底 全員 無言）

各学年の学習内容・活動内容により、ある期間を集中して、

漢字 計算 作文 リーダー活動の準備（6年）などに充てる

(2) 授業改善の面から・・・すでに長期間実施している

①「きく」ことを重視した授業 メリハリのある授業規律の確立

②考え、人と関わる授業・・・校内研究として全校で長期間にわたり取り組んでいる

(3) 家庭との連携の面から

①家庭での学習習慣 規則正しい生活リズム・・・校長室だより「シンフォニー」の紙面を通じて啓発活動や情報交換を行ってきた

②すべての家庭で取り組む具体的目標の提示とその実行について検討

（各家庭の多様化した生活様式や考え方の違いがある中で、学校から一方的に提示するのはどうか？）

2 あいさつを通し、社会性・コミュニケーション能力・他の人への思いやりの心、豊かな心の育成のために

(1) 「あいさつ運動」の見直し

従来の、児童会本部から提示される「あいさつ運動」ではなく、各学年・学級で取り組みを行い、集会やおたより、校内放送などで全校に紹介する。

（与えられる「あいさつ運動」から、自分たちで考える「あいさつ運動」へ）

(2) 道徳の時間に「あいさつ」の授業を行う・・・教材の選択

「あいさつ」は形式ではなく相手を思いやり尊重するために行うもの

その気持ちを「かたち」として表したものが「あいさつ」（小笠原流礼法の本質）

3 よりよい「学校文化」と「伝統」の構築のために

・子どもは先生が教えたようにやるのではなく、先輩がやったようにやる。

→ よりよい「学校文化」や「伝統」の構築

- ・どんなことが「美しいのか」「楽しいのか」「かっこいいのか」が学校文化消費する楽しみから、創造する楽しみへ
ひとつレベルの高い楽しみや喜びを体験させる

→ これらが学校や児童の価値観として、学校の雰囲気を作っていく。

学校文化が高まると、学習に望む姿勢も、心の豊かさも向上する。

- ・行事や活動を通して学ぶ・・・「行事」の実施と、「授業」「指導したい事柄」を分離させない

具体的には、

(1) 意図的を持った行事への取り組み・・・ただ行事を実施するのではなく 何のためにどんな力をつけさせるために、その行事を行っているかを常に意識して実施する。このことは、すでに行われてはいるが、さらに徹底して、かつ教職員で情報交換しながら共通見解をもって行う

(例)

- ①運動会の表現運動・・・何を表現するのか常に意識しながら
- ②運動会の係活動・・・運動会を支えるために、自分の係や分担について誇りを持ち、何かにこだわって仕事を進める。例えば 「放送」の音だしのタイミングや、音楽とナレーションのバランス調整
- ③音楽会・・・歌詞を観客に伝えるために、どのよう歌うか どの態度で臨めば感動させられるか どうすればカッコイイか
- ④各学年の行事や校外学習など
陸上記録会 二分の一成人式 卒業式

※これらについて、よりよい伝統が構築されていなければ、児童の発想を待ってもさらにいいものは生まれにくいので、強力な指導で強引に体験させてしまうことも必要

※「メッセージカード」の活用・・・活動がすめばそれで終わりではなく、「メッセージカード」の掲示を利用し、自分たちの活動や他学年の活動から、よりよいものを学ぶみんながこのように取り組んでいくと、メッセージカードの内容の質が上がる。

(よりよい「学校文化」と「伝統」を具体的に伝える)

- 1 「朝学習」の時間（8：25～40）を、網羅的な活動から集中的な活動へ変更する。
- 2 規則正しい生活リズム、家庭での学習習慣について、すべての家庭で取り組むための具体的目標の提示とその実行（検討する）
- 3 各学年または学級ごと、「あいさつ」への取り組みを行う。
- 4 道徳の時間に、「あいさつ」についての授業を行う。
- 5 意図を持った行事への取り組みを行う。（メッセージカードの活用）

1・・・ただちに実施

2・・・学校関係者評価委員会でアドバイスをいただく

3・4・・・運動会終了後より実施

5・・・まず運動会への取り組みで実行してみる